

支援プロセス

カリキュラムコーディネーター研修会は、「所属組織のカリキュラムを実際に改善できる人材」を育成することを目的としていますが、研修会で、話を聞いて、ワークを行っても、実際に変革を起こす力は身につきません。カリキュラムコーディネーターとしての真の力を身につけるためには実践が必要です。そして、実践を続けるためには、その過程で起こってくる、疑問や不安、時には批判など、様々な課題を乗り越えるために力となる仲間が存在が不可欠です。

研修会参加者に目的を達成していただくため、次のような5段階の成長プロセスをご提供します。

成長ステップ	形態	概要	やること	備考	
本研修会の支援範囲	初級編 受講証	集合研修	カリキュラムコーディネーターの役割を知り、アクションプランを策定	①基本的知識の修得 ②一歩を踏み出すアクションプランの策定 ③共に歩む仲間づくり	研修会を受講することで、参加者に受講証を発行。
	実践編	所属組織での実践	アクションプランに基づく活動	①アクションプランを基に所属組織で一歩を踏み出す ②カリキュラムコーディネーターとしての実践的試行錯誤	研修会終了後12ヵ月間のフォロー。 中級編受講までに2年以上の期間が空いても可
一年目以降（希望者のみ）	中級編 認定証	集合研修	カリキュラムコーディネーターとしての最低限の資質能力があるか確認	①活動結果を持ち寄った相互コンサルテーション ②2～4年の行動計画の作成	カリキュラムコーディネーターとしての最低限の資質能力があるか測定し、基準をクリアしている人に認定証を発行。
	変革編	所属組織での実践	体系的なカリキュラムのアクションプランに全学的に合意して行動	①行動計画の実行 ②カリキュラムコーディネーターとしての実践的試行錯誤	研修会終了後12ヵ月間のフォロー。
	上級編 I・II・IIIポート認定証	集合研修＋個別コンサルティング	本当の変革を生み結果に繋がっているか確認	①成果報告 ②取り組みがうまく行っていない他大学へのアドバイス及び、アドバイス準備を通じた自らの経験への意味づけと体系化	所属組織においてカリキュラムのアクションプラン構成に合意し、学部・学科等がチームとしてカリキュラム運営に取り組む状態になっているかを確認し、基準をクリアしている場合にI・II・IIIポート認定証を発行。

研修参加者コミュニティ
活動報告や悩み相談
(講師もコミュニティに参加)

参加申し込み

メールに必要事項をご記載の上、申込先メールアドレス宛にお申し込みください。

必要事項	① 大学名（所属団体） ② 氏名・部署・役職 ③ ご連絡先（電話/メールアドレス） ④ 教材送付先住所 ⑤ 情報を得たいポイント
申込先URL	https://www.jaedweb.org/cc4
参加費	1人 20,000円
振込先	三井住友銀行 兵庫支店 普通 7718369 カナバトイフョウシクミデザインカキウジヨ
事前課題	同期型での研修の学習効果を高めるために、2時間程度の事前学習をお願いしています。参加申し込み後に事前学習の内容を送付します。

＜参加費に含まれるもの＞ 研修資料および送付料金
12ヶ月間の研修参加者コミュニティを通じたフォローアップ費用

日本高等教育開発協会（JAED）

Web: <https://www.jaedweb.org> お問い合わせ先: info@jaedweb.org

第 4 回

- いま既にあるカリキュラムから出発する -



カリキュラムコーディネーター養成研修会＜初級編＞

～ 組織がチームとして教育に取り組むための仕組み作り ～

組織がチームとして学生をどう育てるか議論し、その成果を評価し、教育改善に取り組む。本研修会は、貴校において持続的な教育改善の仕組みを確立していく人材養成を目指します。

- 開催日程 2020年11月21日(土) 13:00 ～ 18:00
11月22日(日) 10:30 ～ 17:00 （詳しくは内面をご参照ください）
- 場 所 オンライン開催（Zoom）
- 対 象 者 大学職員（教員も可） 定員 36名
- 【主催】日本高等教育開発協会(JAED)
- 【共催】理工学教育共同利用拠点(芝浦工業大学・教育イノベーション推進センター) 株式会社 学びと成長しくみデザイン研究所

学修成果の可視化やアセスメントプランの策定が求められる中、ディプロマポリシーに掲げた人材像へ向けて、学生をより確実に育てていくためのカリキュラム・マネジメントの重要性が強く認識されるようになっていきます。

同時に、学内でカリキュラムマネジメントを担う人材の育成が大きな課題となっているという声も聴くようになりました。

本研修会では、「カリキュラムコーディネーター」に求められる基本的な力を、理論と実践事例の両面から学んだうえで、所属組織に戻ってから実施する具体的なアクションプランの整理まで、参加者同士のワークを通して深めてまいります。

所属組織の教育力を高めるため、学部・学科等がチームとしてカリキュラム運営する体制を本気で確立したいとお考えの方はぜひご参加ください。貴校の議論がスタートするきっかけとなれるよう、しっかり準備をしてお待ち申し上げます。

本セミナーは Zoomを使用してオンラインで開催します。以下の環境で参加できることをご確認の上でお申し込みください。

- ・カメラ・マイクが利用可能で、かつ高速なインターネットに接続された PC 等が用意できること。グループワークを行いますので、1人1台をご準備ください。
- ・発言等ができる静粛な環境でご参加ください。（内蔵マイクよりも雑音が入りにくいヘッドセットを推奨）

このような方が対象です

- カリキュラムコーディネーターという役割に、所属組織の教育力を高めるための可能性を感じ、自身がカリキュラムコーディネーターになりたいと考えている方。
- 学部・学科等で教育についてもっとしっかりと議論し、学生にとって学びやすく、学習意欲を引き出せる仕組みを作っていきたいと思ってはいるものの、既存のカリキュラムがある中で、どのように議論を組み立てていけばよいかわからない方。
- カリキュラムの成果を点検評価し、改善に繋がたいが、何をどこまで行えばよいのか、具体的にイメージできない方。

参加により期待される変化

- 大学のカリキュラム編成の原理を理論的に説明できるようになり、所属組織のカリキュラムの特徴と課題を抽出した上で、解決方法を提案できるようになります。
- 既存のカリキュラムをスタート地点に、学部・学科等がチームとして教育に取り組む体制を確立していく流れをイメージできるようになります。
- カリキュラムの成果をどのように点検評価し、どのように改善に繋がていけばよいか、具体的なイメージを持てるようになります。

本研修の
到達目標

- 1. 大学のカリキュラムの特徴と編成の原理を説明することができる。
- 2. 所属組織のカリキュラムの特徴と課題を抽出することができる。
- 3. カリキュラムマネジメントに関するさまざまな課題解決の方法を提案することができる。

- 4. 所属組織のアセスメントプランを作成することができる。
- 5. 大学のカリキュラムに関する多様な考え方や実践事例を尊重し、参加者と共に学びあう文化づくりに貢献できる。

講師



佐藤浩章
日本高等教育
開発協会 会長
大阪大学 准教授



中井俊樹
日本高等教育
開発協会 副会長
愛媛大学 教授



榊原暢久
日本高等教育
開発協会 理事
芝浦工業大学 教授



清水栄子
日本高等教育
開発協会 正会員
追手門学院大学 准教授



竹中喜一
日本高等教育
開発協会 正会員
愛媛大学 講師



桑木康宏
株式会社 学びと成長
しくみ デザイン研究所
代表取締役

プログラム

1日目 ◆ 11月21日 土曜日

＜オリエンテーション＞

13:00～13:20

【1】研修に参加するにあたって

桑木康宏

研修に参加するにあたって、ZOOMの使用方法和研修内でのグランドルールの確認します。

＜理論編＞

13:20～13:50

【2】カリキュラムマネジメントの背景と意義
～カリキュラムコーディネーターはなぜ必要か～

中井俊樹

大学におけるカリキュラムマネジメントとはどのようなものなのか、そしてそれはなぜ求められるのかの背景を理解します。

＜実践編＞

14:00～14:50

【3】所属組織のカリキュラムの特徴と課題
～編成における課題を明確にする～

中井俊樹

事前課題で学習したカリキュラムの構成要素を踏まえて、所属組織のカリキュラムの特徴を明確にします。そして、所属機関のカリキュラムの改善すべき内容を明確にします。

＜実践編＞

15:00～15:50

【4】3つのポリシーの見直しと修正
～ポリシー間に一貫性を構築する～

佐藤浩章

すでに策定・公表済みの3つのポリシーは適切なものになっているでしょうか。ここでは、チェックポイントに沿って、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーを見直し、その場で修正案を作成します。

＜実践編＞

16:00～16:50

【5】カリキュラムの編成と実施
～構造化して学修成果に繋げる～

榊原暢久

評価によって得られたデータを基に、カリキュラム設計し直す際には、原理にのっとって作業を進める必要があります。特定個人や集団の利害が優先されることがあってはなりません。学生中心、学修成果を確実にもたらす設計手順を学びます。

＜実践編＞

17:00～18:00

【6】カリキュラムの評価と改善
～学習の過程と成果を多面的に捉える～

竹中喜一

アセスメントプランに関する事前課題の内容を踏まえながら、現状のカリキュラムをデータに基づき評価する方法や、その結果を改善につなげるためのアプローチについて理解します。

2日目 ◆ 11月22日 日曜日

＜実践編＞

10:30～11:20

【7】カリキュラムマネジメントの組織体制
～編成、実施、評価、改善を支える仕組み～

中井俊樹

適切にカリキュラムが運営されるには、教育の論理だけでなく運営の論理が重要になります。カリキュラムマネジメントの考え方とその具体的な組織体制のあり方を理解します。

＜事例編＞

11:30～12:00

【8】カリキュラム・マネジメントの実践事例1
～カリキュラムアセスメントチェックの方法～

清水栄子

アセスメント活動を実施するための具体的な制度設計を表にしたものに、カリキュラム・アセスメント・チェックリストがあります。ここでは、同チェックリストを用いた学部レベルのアセスメントについて事例を紹介します。

＜事例編＞

13:00～13:30

【9】カリキュラム・マネジメントの実践事例2
～カリキュラムマップを意識したシラバス作成の取り組み～

桑木康宏

カリキュラムマップを作っても、シラバスがカリキュラムマップを意識したものとならなければ、各科目はカリキュラム設計の意図に沿わない運営となりがちです。ここでは、先生方に、無理のない範囲でカリキュラムマップを意識したシラバス作成を行っていただいた実践事例をご報告します。

＜演習編＞

13:40～16:20

【10】カリキュラムの課題解決案の作成と共有
～アクションプランを作成し仲間と約束をする～

全講師

カリキュラムの課題解決のアクションプランを作成します。講師とのメンタリングも行いブラッシュアップします。作成したアクションプランを仲間と共有し、いつまでに行動を起こすのかを宣言します。

＜実践編＞

16:30～16:50

【11】組織的なカリキュラムの課題解決
～適切な方法で教職員を牽引する～

中井俊樹

カリキュラムの課題を解決するには教職員の協力が必要です。そのためには、教職員がどのような力で動くのかを理解した上でリーダーシップを発揮する方法を身につけます。

＜まとめ＞

16:50～17:00

【12】研修を終えて
～振り返りと全体のまとめ～

佐藤浩章・桑木康宏

2日間の全体の振り返りと研修のまとめを行います。